


山本カッタ

取扱説明書

CX-201S

安全上の大切なお知らせ

- 本機を取り扱う場合には、正しい方法で、正しく取り扱うことが大切です。正しい取扱い方をしないと、予期しない事故を引き起こし、人身傷害や財産の損壊を起こす恐れがあります。
- 本機を改造しないでください。
- この「取扱説明書」では、予想できる限りの危険な状況をあらかじめ知っておいていただくために、警告の内容によって危険な状況を、そのアラートシンボルマーク（）とシグナルワード（危険、警告、注意）を付けて表示しています。

危険

この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況を示します。

警告

この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性のある危険状況を示します。

注意

この表示は、指示に従わなかった場合、重傷または中程度の傷害を負う可能性のある危険状況を示します。

注意

この表示は、指示に従わなかった場合、物的損害の発生のみ予測されるような種類の危険状況を示します。

- 本機は、下記切断物の切断用として設計してあります。その他の用途では使用できません。

	切断物直径	種類
切断物	せんてい枝・残条 φ20mm以下	稲わら・牧草・山草・デントコーン・野菜 全般の茎・せんてい枝・桑の残条・タバコ残幹

- 本機の取扱いについては、定められた管理者が、必ず安全運転教育を受けておこなってください。

はじめに

お買上げありがとうございました。

- この「取扱説明書」は、山本カッタ CX-201S型の安全に関する事項、運転手順および点検整備の手順を説明しています。
- 本書をよく読んで理解してから、本書の指示に従って本機の運転および点検整備をしてください。

- 初めて使う方は、まず全体をよく読んでください。使ったことのある方は、少しでも疑問が生じたら、もう一度読んで確かめてください。
- 本機を他の人に操作させる場合も、本書を読んで理解するように十分指導してください。
- 操作するときの重要な取扱いについては、その内容を線で囲み「注記」の文字を付けてあります。
- 本書は、本機のそばにおいて、いつでも誰でも参照できるようにしておいてください。もし、本書を紛失した場合は、購入先へ依頼して取り寄せ、必ず備え付けておいてください。
- 本書に用いた写真や図は、本書を制作した時点のものです。

本機は、製品改良により設計変更をすることがありますので、外観が本書の写真や図と部分的に異なることがあります。しかし手順は同じですので、本書の指示に従ってください。

- 本機の機体銘板は、図示の位置に貼り付けてあります。本機についてお問合わせのときは、機体銘板に記載されている「型式名と製造番号」をお知らせください。
- 本機または本書についてご質問などありましたら、購入先にお問合わせください。



- 本機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故などによる補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

も く じ

(表紙裏) ▲ 安全上の大切なお知らせ
はじめに

ページ

第1章	安全	1
1. 1	安全に関する重要警告事項	1
1. 2	火災予防に関する重要警告事項	4
1. 3	「警告ラベル」の貼付位置	6
第2章	製品の概要	9
2. 1	仕様	9
2. 1. 1	主要諸元	9
2. 1. 2	使用ベルトの仕様	10
2. 2	外形寸法図	11
2. 3	各部の名称	12
2. 4	運転装置の構造・機能	13
2. 4. 1	カッタの作動原理	13
2. 4. 2	動力伝達装置	14
2. 4. 3	操作装置	15
第3章	据付準備作業	17
3. 1	梱包部品の確認	17
第4章	組立作業	21
4. 1	送り樋部の取付け	21
4. 2	吐出口の取付け	22
4. 3	原動機の取付け	23
4. 4	試運転作業	26
4. 4. 1	試運転前の確認事項	26
4. 4. 2	試運転	27

第5章	運転操作	29
5. 1	運転前の準備	29
5. 2	原動機の始動	30
5. 3	カッタ作業	32
5. 3. 1	カッタ作業の手順	32
5. 3. 2	供給物の上手な供給方法	33
5. 3. 3	刃物の研磨時期の見分け方	34
5. 3. 4	放出距離の合わせ方	34
5. 4	原動機の停止	35
5. 5	作業終了後の点検	36
第6章	簡単な故障診断	37
第7章	点検・調節・整備	39
7. 1	始業点検	39
7. 2	内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領	41
7. 3	給脂の要領	42
7. 4	切断長さの調節	43
7. 4. 1	チェンジギヤの交換要領	44
7. 4. 2	バランスウエイトの取付要領	45
7. 5	刃物の交換と調節の要領	47
7. 5. 1	回転刃の交換	47
7. 5. 2	固定刃の交換	48
7. 5. 3	刃物のすき間の調節	48
7. 5. 4	刃物の研磨の方法	51
7. 6	消耗品	52
第8章	格納・保管	53
8. 1	格納・保管の要領	53

MEMO

第 1 章

安 全

本機の手扱いは始める前は、必ず下記の重要警告事項を読んで、理解してください。

1.1 安全に関する重要警告事項

⚠ 危険

1. 安全上の基本的危険事項

- (1) 子供を本機のそばで遊ばせないでください。子供は本機の手扱レバー類をさわることあり、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 作業をするときは、右図のような作業にあつたきちんとした服装でおこなってください。機械に巻き込まれたりする恐れがあります。点検・整備をするときは、右図のような服装にくわえて、必要に応じてヘルメット、防護メガネ、手袋、マスクを着用してください。
- (3) 二人以上で作業をするときは、安全のために声を掛け合つておこなってください。一方の人が誤つて手扱レバーを操作してしまうと、人身事故を起こす恐れがあります。
- (4) 次に挙げる人は、作業をしないでください。
 - ① 飲酒し、酒気を帯びている人
 - ② 薬剤を服用し、作業に支障のある人
 - ③ 病気、負傷、過労等により、正常な作業が困難な人
 - ④ 年少者（18歳未満）



危険

2. 据付け時の危険事項

- (1) 据付場所は、運転操作・点検・調節・整備ができる明るい場所にしてください。暗い場所で運転操作・点検・調節・整備をすると、重大な事故を起こす恐れがあります。
- (2) 据付場所は、下記の条件を満たす場所にしてください。軟弱な地面や水平でない場所に設置すると、運転中に傾いてしまう恐れがあります。
 - コンクリートなどの不燃材料で作られた水平な場所であること。
 - 本機の全質量（仕様の項に明記）に長期間、十分耐えられる場所であること。
- (3) 元電源および電源コードは、必ずアースを接続したものを使用してください。アースを接続しないと、漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。
- (4) エンジンを使用している運転中、屋内作業では排気ガスが充満し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。作業場の換気を良くしてください。

3. 作業中の危険事項

- (1) モータまたはエンジンを始動すると、すぐに回転刃が回転します。供給口の内部に手を入れないでください。回転部に巻き込まれて重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) モータまたはエンジンを始動するときは、必ず供給クラッチレバーを「停止」の位置にしてから、運転スイッチを「ON」にしてください。そうでないと、供給ローラ（上ローラ、下ローラ）に手を巻き込まれて重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (3) カバーを取りはずしたままで運転しないでください。カバー類をはずして運転をすると、回転部に体が触れたり、巻き込まれたりして重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (4) 本機から離れるときは、必ずモータまたはエンジンを停止させ、冷えてから本機のそばを離れてください。回転刃に他の人が接触し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。また火災の原因となる恐れがあります。
- (5) モータ使用の場合、作業中に停電になったときは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。電源を「OFF」にしないと通電時、急に本機が作動し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 危険

- (6) 緊急時、すぐにモータまたはエンジンの運転スイッチを「OFF」できる位置に運転スイッチを設置してください。緊急停止できず、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (7) 運転中、供給物を引っ張ったり、押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。
- (8) 安全カバー類は、必ずモータまたはエンジンを停止させてから取りはずしてください。重大な人身事故を起こす恐れがあります。

4. 原動機に関する危険事項

- (1) 原動機を取り扱う場合は、原動機の「取扱説明書」の指示に従ってください。取扱い方を誤ると重大事故につながる恐れがあります。
- (2) 原動機としてモータを使用する場合
 - 運転スイッチは、防水性のものを使用し、本機の近くにあって、子供の手の届かない高さに設定してください。運転スイッチが故障したり、あるいは子供が勝手に運転スイッチをさわったりすると重大な人身事故を起こす恐れがあります。
 - モータ本体から必ずアースを接続してください。アースを接続しないと、漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。

5. 点検・調節・整備に関する危険事項

- (1) 本機の点検・調節・整備をおこなう場合、モータを使用しているときは必ず電源スイッチを「OFF」にし、電源コネクタを抜いて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。また、エンジンを使用しているときは必ずエンジンを停止させて、さらに回転刃が停止したことを確認してからおこなってください。感電による死亡事故につながる恐れがあります。また、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類（「各部の名称」（2.3項）で指定されている）を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (3) 安全カバー類をはずすときは、必ずモータまたはエンジンを停止させてからおこなってください。重大な人身事故を起こす恐れがあります。

1.2 火災予防に関する重要警告事項

- 下記の項目は、火災を発生する原因となる恐れがあるので守ってください。

危険

1. 燃料等に関する火災予防事項

- (1) 燃料の給油中は、くわえたばこ、または裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火する恐れがあるので危険です。
- (2) オイルの給油中は、くわえたばこ、または裸火照明は絶対にしないでください。オイルに引火する恐れがあるので危険です。

2. カッタ運転停止時における火災予防事項

- (1) 本機から離れるときは、必ずモータまたはエンジンを停止させ、冷えてから本機のそばを離れてください。回転刃に人が接触して重大な人身事故を起こす恐れがあります。また、火災の原因となる恐れがあります。

警告

1. 原動機に関する火災予防事項

- (1) 原動機としてエンジンを使用する場合、その取扱いはエンジンメーカーの「取扱説明書」に従っておこなってください。特に下記の点に注意してください。
 - ① 必ず防塵タイプのエンジンを取り付けてください。
 - ② 燃料タンクや燃料パイプから油もれがないことを確認してから運転してください。
 - ③ エンジンに燃料の補給または給油・給脂をする場合はエンジンを止め、完全に冷えてから補給または給油・給脂をしてください。
 - ④ 燃料の補給または給油・給脂をしたときは、こぼれた油類をきれいに拭き取ってください。
 - ⑤ 作業終了後、燃料タンクのコックを締めてください。
 - ⑥ くわえたばこまたは裸火照明は、燃料に引火する場合がありますので危険です。絶対にしないでください。

 **警告**

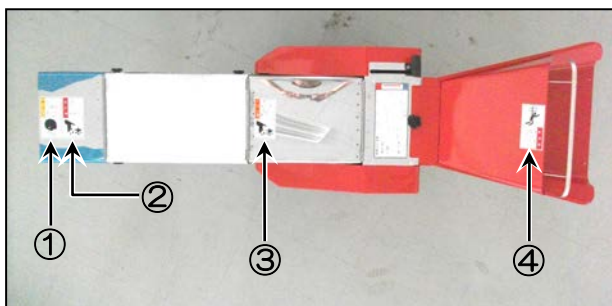
- (2) 電源は、漏電ブレーカの付いた専用電源に接続してください。漏電による人身事故または火災の原因となります。
- (3) コード類は、電気用品安全法の適合マーク（PSE）製品を使用してください。
- (4) 配線は、電気工事会社と相談の上、内線規定に従って実施してください。
- (5) モータを原動機として使用しているカッタは、モータ本体からアースを取ってください。アースを接続しないと漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。
- (6) コード、スイッチなどはモータの容量に合った製品を選んでください。
- (7) 損傷したコードは、使用しないでください。
- (8) モータまたはエンジンの周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。

1.3 「警告ラベル」の貼付位置

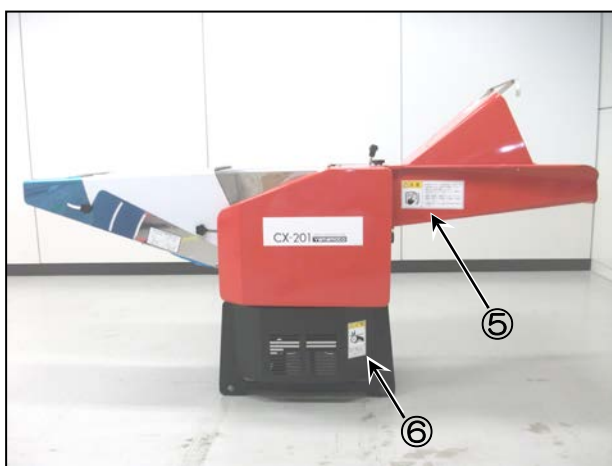
- 「警告ラベル」は、図示の位置に貼り付けてあります。
- この「警告ラベル」には、「危険マーク」・「警告マーク」・「注意マーク」の3種類があります。これらの警告の内容は、この「取扱説明書」の最初の「**▲** 安全上の大切なお知らせ」のところで説明しましたことと同じです。必ずその指示に従ってください。
- これらの「警告ラベル」およびその他のラベルは、いつもきれいにして、人に見えるようにしておいてください。ラベルが紛失あるいは損傷した場合は、そのラベルを購入先から取り寄せ、所定の場所に貼り付けてください。

注 記

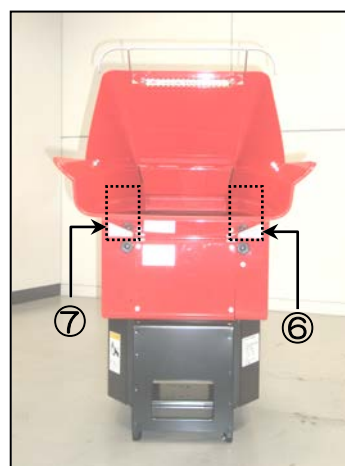
- 本機の右側または左側とは、操作する人が本機の前面（供給口側）に向かって立った位置から見て、右または左を指します。



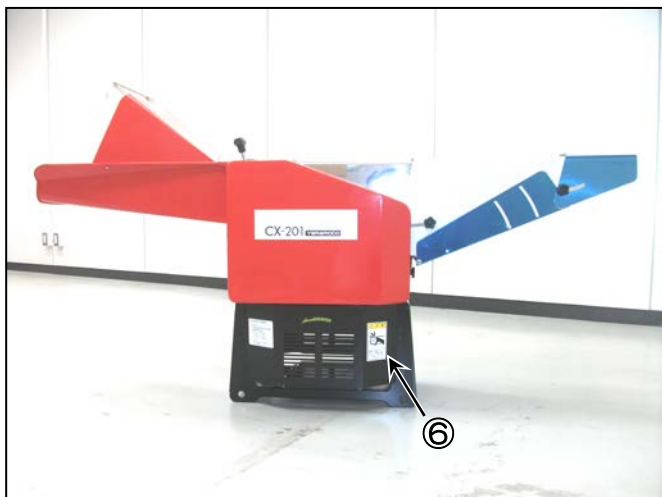
(平面)



(左側面)



(前面)



(右側面)



(後面)

① 飛散注意マーク

(部品コード：298106-1200)



② 回転刃危険マーク

(部品コード：298702-1200)



③ 回転刃警告マーク

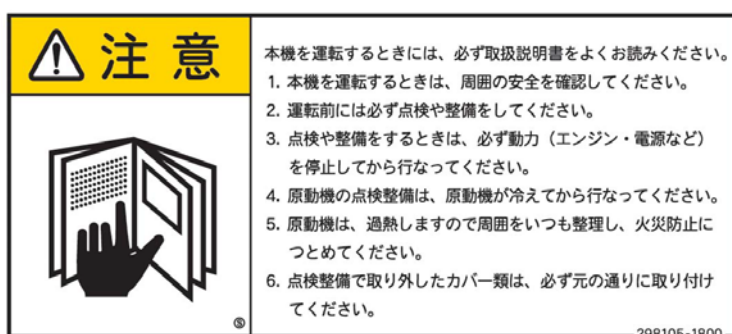
(部品コード：298500-1200)



④ ローラ危険マーク
 (部品コード：298703-1200)



⑤ 取扱注意マーク
 (部品コード：298105-1800)



⑥ ベルト注意マーク
 (部品コード：297110-0600)



⑦ ギヤ注意マーク
 (部品コード：297111-0600)



第 2 章

製品の概要

2.1 仕様

2.1.1 主要諸元

項 目		単 位	仕 様 値
型 式		—	CX-201S
機 体 寸 法	全 長	mm	1740
	全 幅	mm	500
	全 高	mm	985
機 体 質 量		kg	60
所 要 動 力		kW	0.4~1.9
毎 時 性 能		kg/h	1200~2500 (ワラ) 5000 (デントコーン)
は ね 出 し 機 構		—	シリンダタイプはね出し型
は ね 出 し 距 離		m	1~6
切 断 寸 法		mm	19・47・77
切 断 寸 法 切 替 機 構		—	歯車交換式 (3 段)
伝 動 部	主軸回転数	rpm	800 (長切り 600)
	クラッチ機構	—	テンションクラッチ式
回 転 刃	回転刃の枚数	枚	2 (ねじれ刃)
	回転刃の材質	—	高速度工具鋼
固 定 刃 の 材 質		—	高速度工具鋼
モ ー タ ベ ー ス		—	標準装備 (三相 200V 1.9kW まで装着可)
ロ ー ラ 幅		mm	200
オ プ シ ョ ン	キ ャ ス タ	—	CX-CST
	バ ラ ン ス ウ ェ イ ト	—	可 (1 枚刃使用時)
	ギ ヤ	—	14・36 16・34
	カ ッ タ キ ャ リ	—	CFR-CXA
モ ー タ プ ー リ		—	可
摘 要		—	モータベース付 ケーシング・吐出口 (ステンレス)

注 記

- 毎時性能は、小さい方の値は稲わらの 20 mm切断、大きい方の値がデントコーン 20 mm切断の場合です。
- はね出し距離は、乾燥わらの場合です。生牧草類などの場合は、乾燥わらの値の 1/2~ 2/3 になります。

2.1.2 使用ベルトの仕様

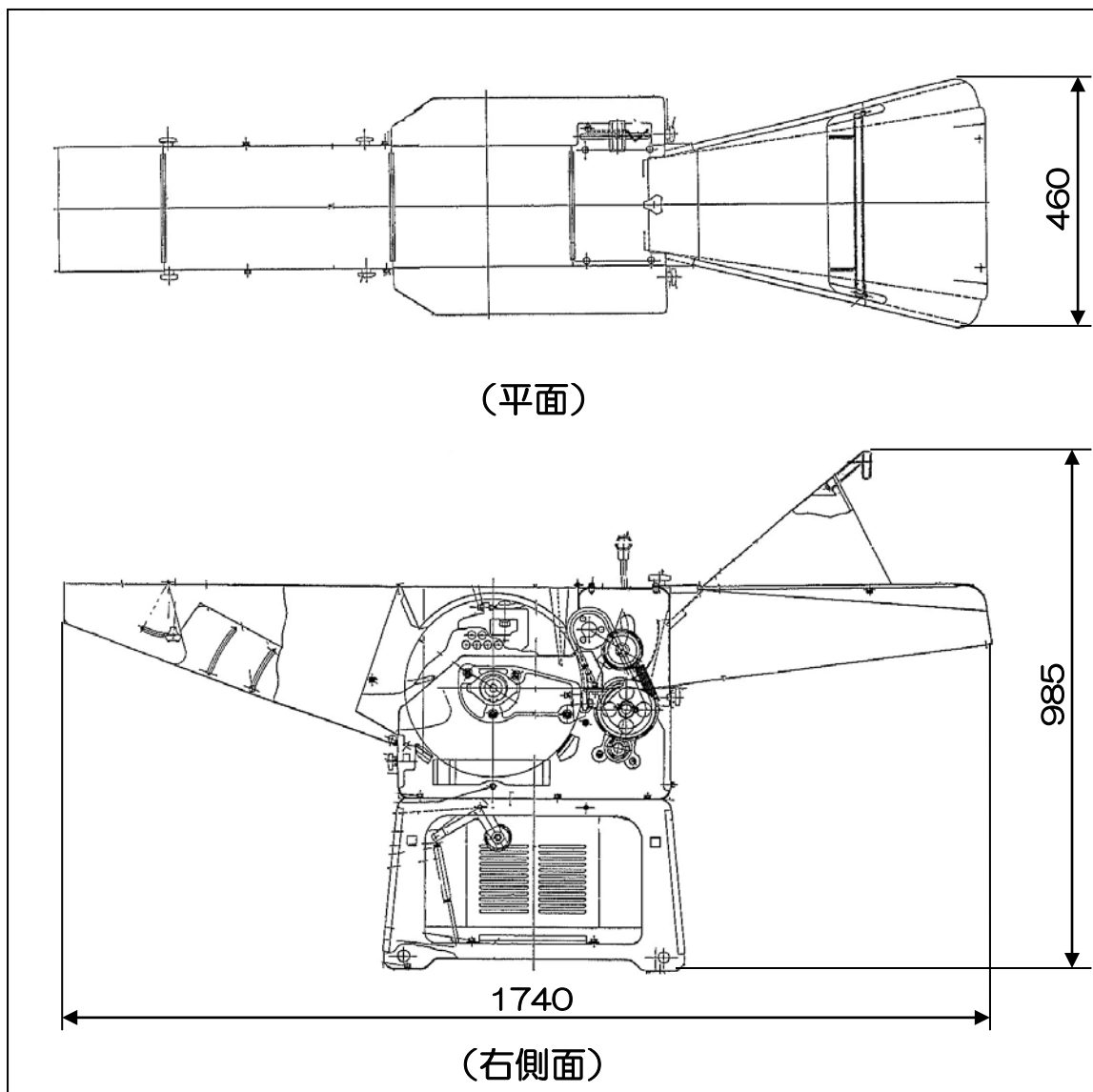
(1) モータ (1.5kW) を使用するとき

	個数	CX-201S
カッタ駆動用	1	LB47 または LB48
カッタ減速用	1	LA36

(2) エンジンを使用するとき (別売 CFR-CXA を準備)

	個数	CX-201S
カッタ駆動用	1	LB69
カッタ減速用	1	LA36

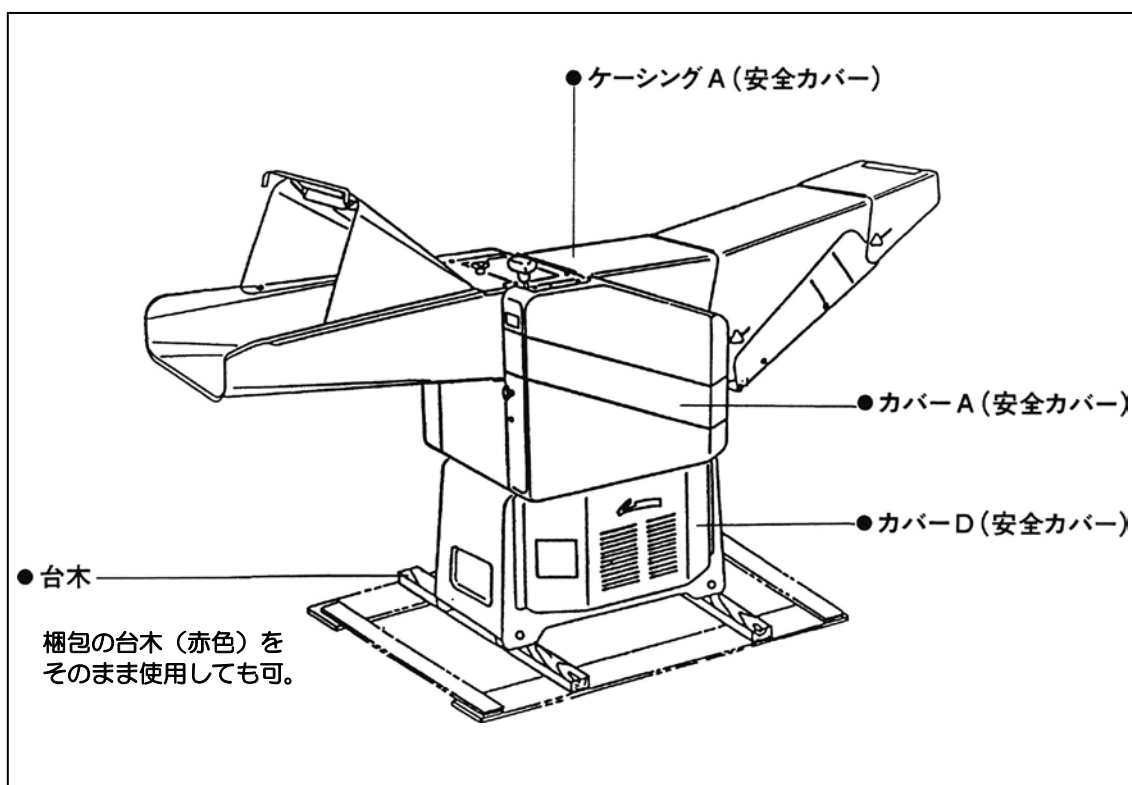
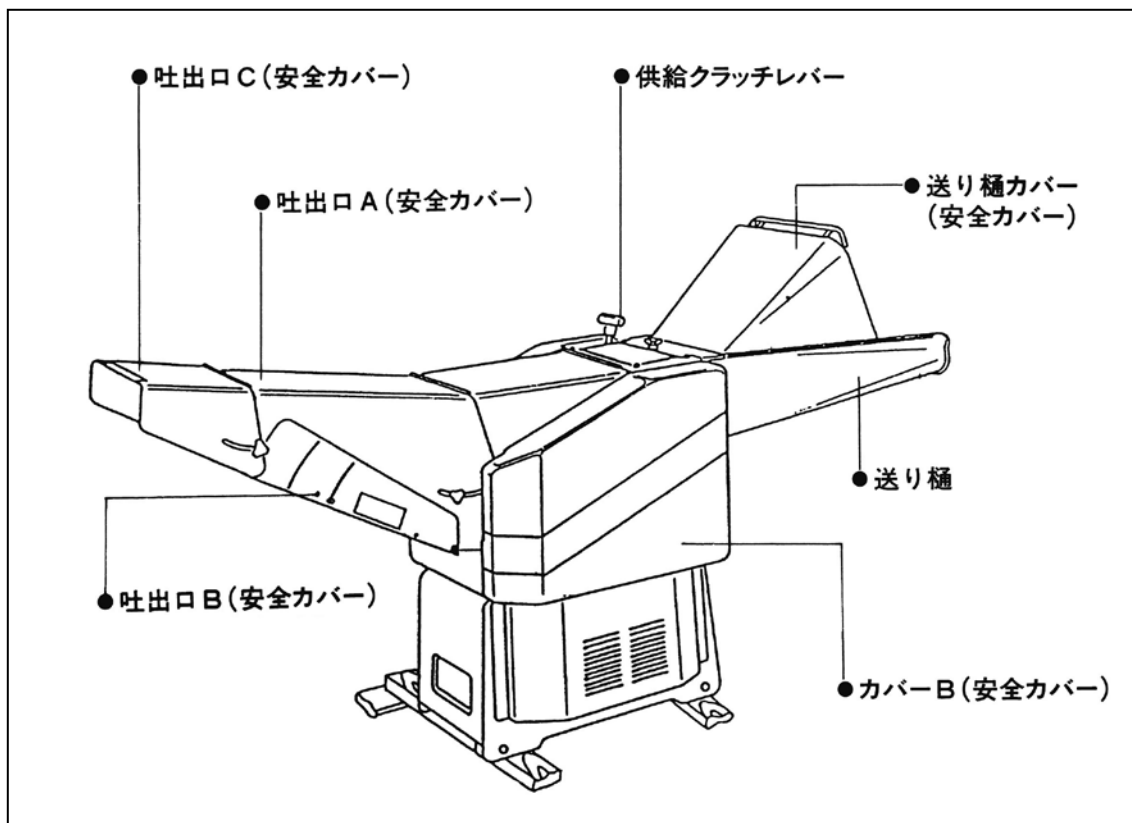
2.2 外形寸法図



注 記

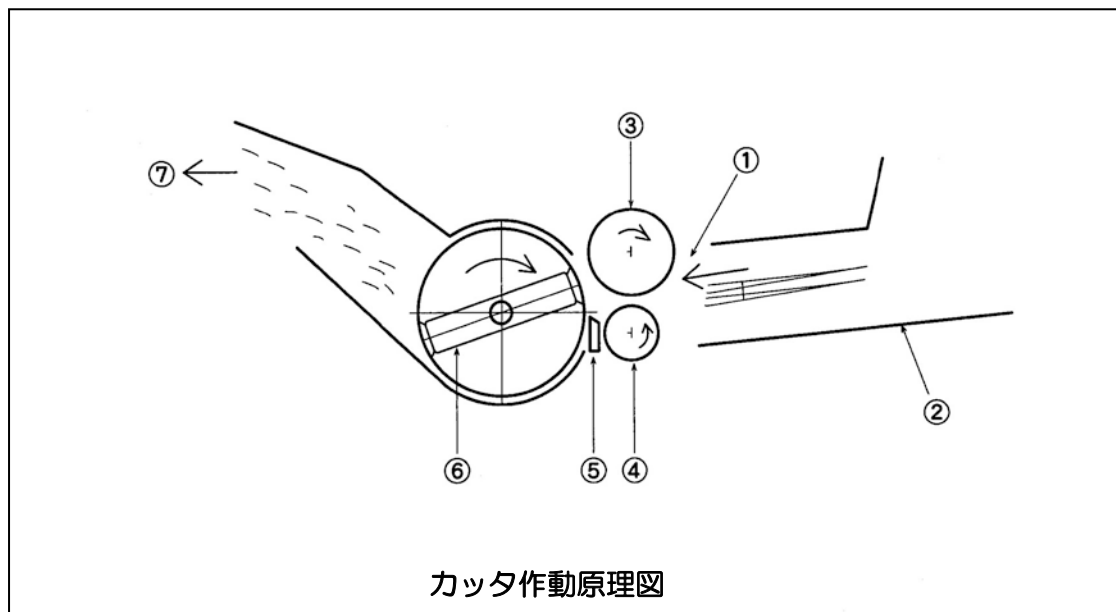
- 本機の右側または左側とは、操作する人が本機の前面（供給口側）に向かって立った位置から見て、右または左を指します。
- 本機は操作する人が向いている方を前、その先端を前面、逆の方向を後、その後端を後面といいます。

2.3 各部の名称



2.4 運転装置の構造・機能

2.4.1 カッタの作動原理

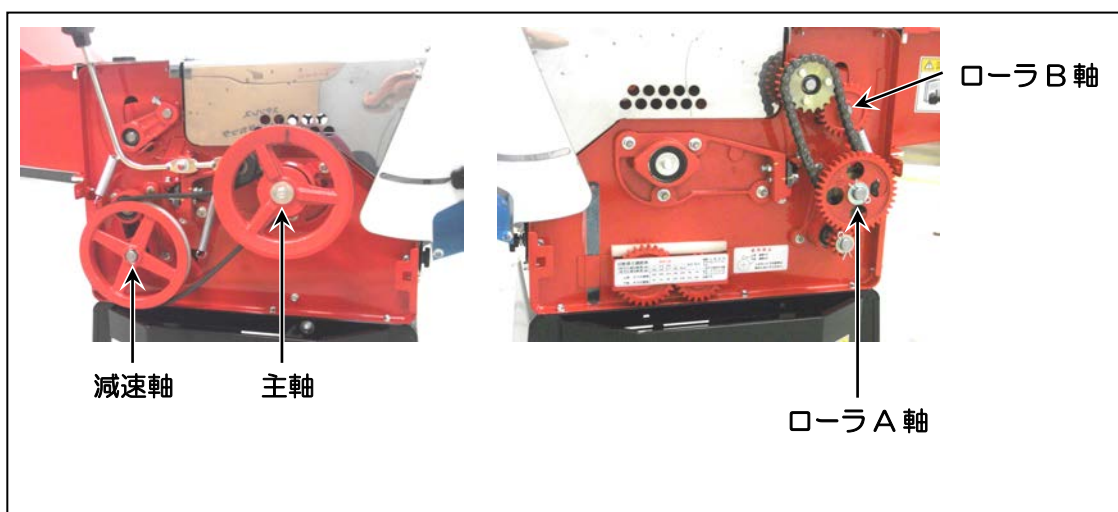
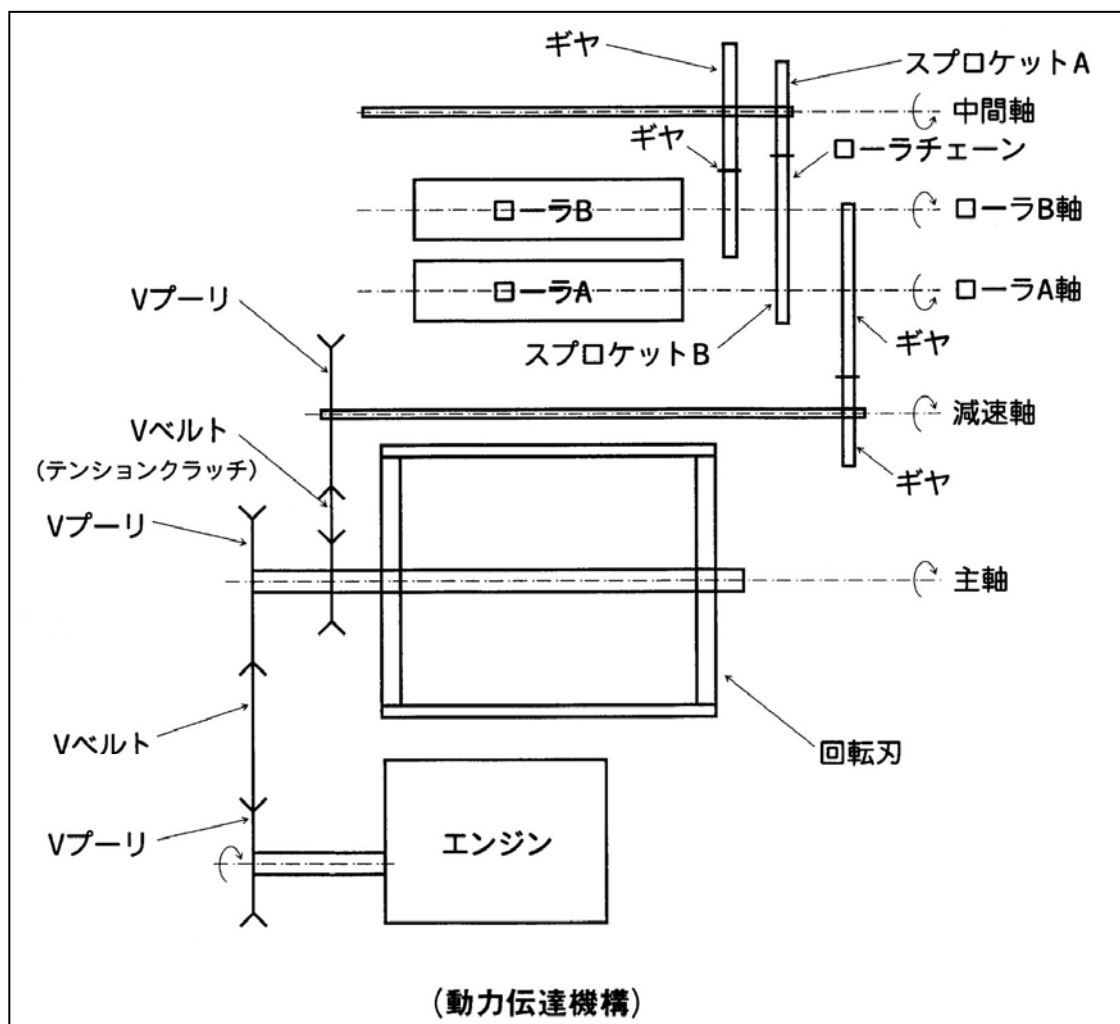


供給樋②により送られてきた供給物は、供給口①からカッタ本体の内部に入り、送り込み用上ローラ③と送り込み用下ローラ④にはさまれて、更に奥の固定刃⑤の上送到られます。固定刃の上にある供給物は、主軸に固定された回転刃⑥に当たり切断されます。

切断された切断物は、やはり主軸の回転刃の内側に固定された翼板の回転作用によって、吐出口⑦にはねとばされて排出されます。

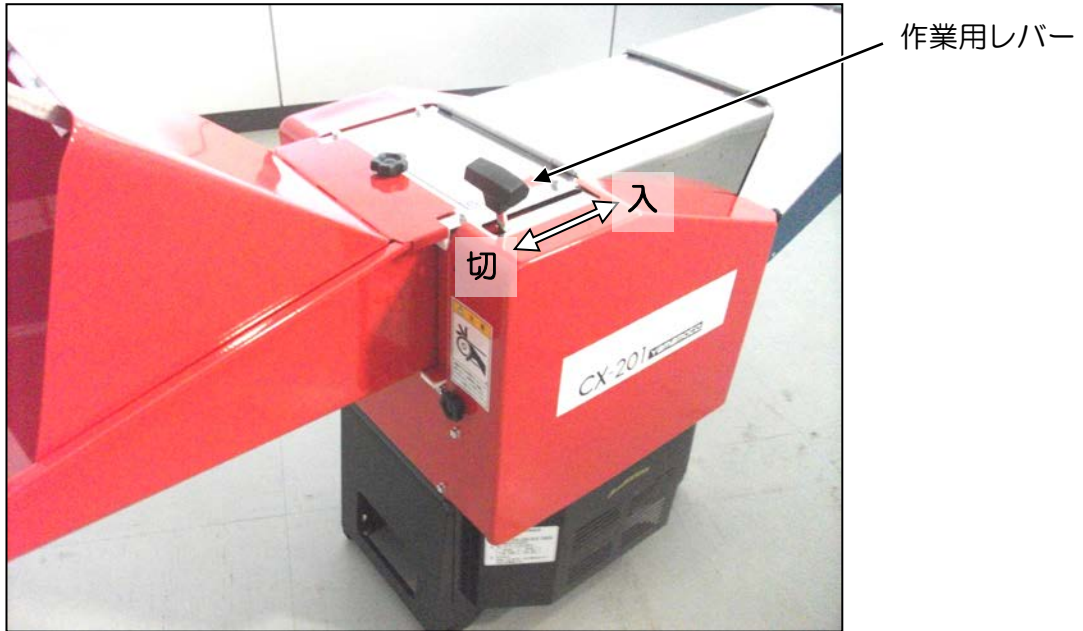
2.4.2 動力伝達装置（動力伝達機構図を参照）

原動機（モータまたはエンジン）を運転すると、原動機の回転が回転刃に伝達されます。そして、供給クラッチレバーを「切」から「入」に切り換えると、歯車の減速機構を介して供給ローラに伝達されて供給ローラが回転し、カット作業がおこなえます。



2.4.3 操作装置

- 作業用レバー



MEMO

第 3 章

据付準備作業

3.1 梱包部品の確認


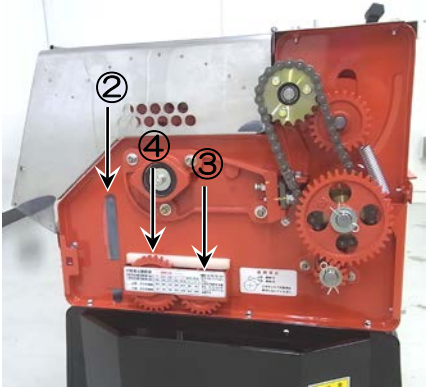


注意



- 開梱する際は、木枠梱包の釘などでけがをする恐れがあるので注意して開梱してください。

- (1) 梱包の型式に誤りがないことを確認してください。
- (2) 梱包内の部品の員数不足がないことを確認してください。
- (3) 梱包内の部品に不良品がないことを確認してください。
- (4) 上記(1)～(3)の中で異常がある場合には、購入先へ製造 No、部品名称および必要個数を連絡してください。

警告

- 開梱した廃材などは、お客様と相談の上、安全な場所に片付けてください。
開梱した木材には釘が出ているので、そのまま置いておくと重傷を負う恐れがあります。また、ビニール袋などは子供がかぶって遊ぶと死亡事故につながる恐れがあります。

梱包名称	符号	部品名称	個数	形状
ダンボール（十木枠梱包）	①	カッタ本体	1	
	②	刃合わせゲージ	1	
	③	ギヤ 22T	1	
	④	ギヤ 28T	1	
	⑤	送り樋カバー	1	
	⑥	送り樋	1	

梱包名称	符号	部品名称	個数	形状
ダンボール梱包（十木枠台木）	⑦	吐出口A	1	
	⑧	吐出口B	1	
	⑨	吐出口C	1	
	⑩	止め栓	2	
	⑪	ノブボルト M6	4	
	⑫	ボルト M6	4	
	⑬	ナット M6	2	
	⑭	ボルト M8	4	
	⑮	座金 M8	4	
	⑯	ナット M8	4	
⑰	「取扱説明書」 (山本カタ)	1		
⑱	「取扱説明書」 (エンジン)	1		

MEMO

第 4 章

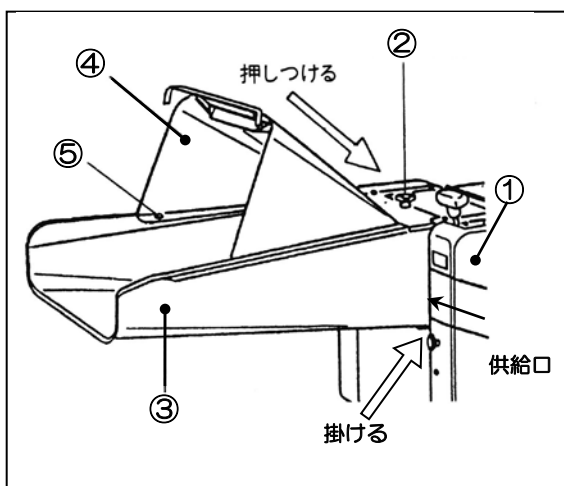
組立作業

4.1 送り樋部の取付け

- 下記の手順に従って取り付けてください。

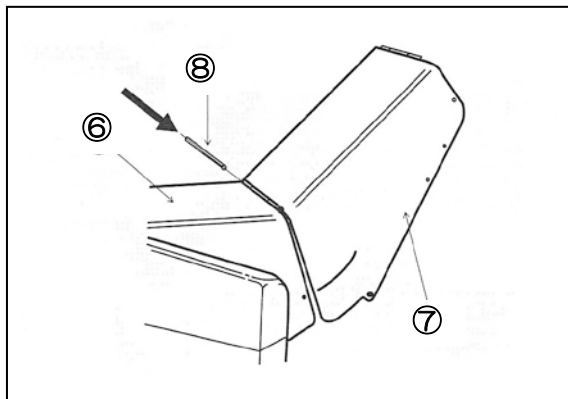
(1) カッタ本体①のノブボルト M8②をはずし、送り樋③の下部を供給口に掛けてからノブボルト②で固定してください。

(2) 送り樋③に送り樋カバー④の先端を差し込み、押し付けながらボルト M6⑤（2 個）を使用して固定してください。



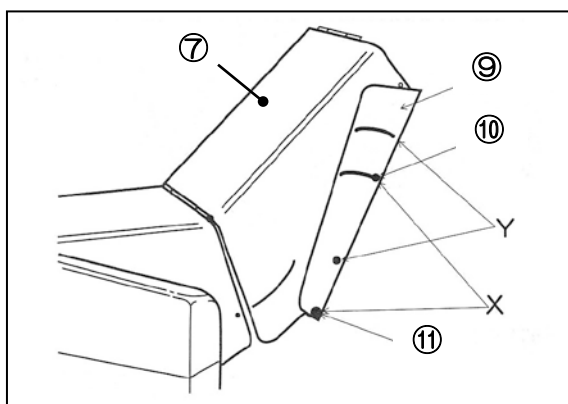
4.2 吐出口の取付け

- (1) ケーシングA⑥と吐出口A⑦に、
止め栓⑧を打ち込んでください。



- (2) 吐出口A⑦を適当な高さに上げた
状態で吐出口B⑨をボルトM6⑩
(2 個) およびナットM6⑪ (2
個)を使用して固定してください。

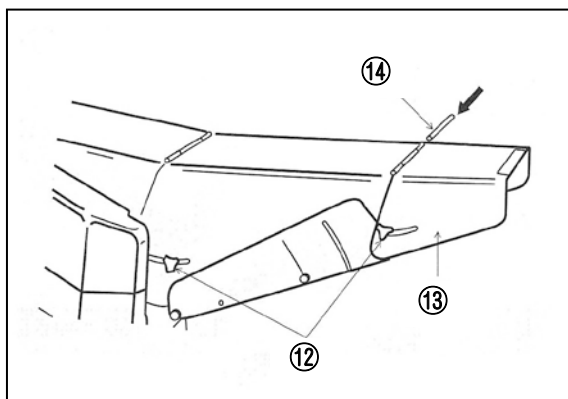
- このとき、吐出口 A を水平に
近い状態で使用したいときは
X、角度を付けて使用したい
ときには Y の位置で固定して
ください。



- (3) 吐出口A⑦を下げて側面からノブ
ボルトM6⑫ (2 個) を使用して
本機に固定してください。

- (4) 吐出口A⑦と吐出口C⑬に止め栓
⑭を打ち込んでください。

- (5) 吐出口C⑬を側面からノブボルト
M6⑫ (2 個) を使用して吐出口
A に固定してください。



4.3 原動機の取付け

● 原動機がエンジンのとき

- エンジンを使用するときは、別売りのカッタキャリ（CFR-CXA 型）と防塵タイプのエンジンを別途準備し、それ以外は取り付けないでください。エンジンの詳細は購入先にご相談ください。
- エンジンの取付方法については、カッタキャリの取扱説明書に従ってください。

● 原動機がモータのとき

- モータを使用するときは、「火災予防に関する重要警告事項」（1.2 項）に従った配線等をおこなってください。

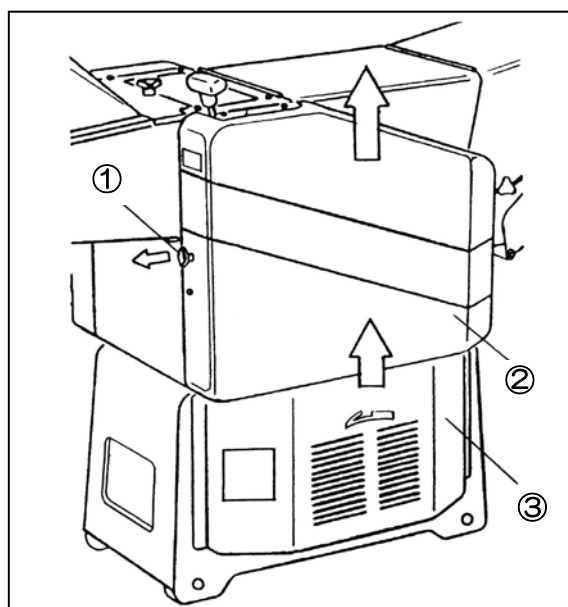
(1) モータ、プーリ、Vベルトを別途準備してください。

- モータの出力：0.4～1.9kW（単相または三相）
（作業現場の電源に合ったものを選択してください。）
- プーリの大きさ：外径φ108（50Hz 地区）
外径φ90（60Hz 地区）
（切断長 100 mm未満の場合）
- Vベルト：LB-47#またはLB-48#

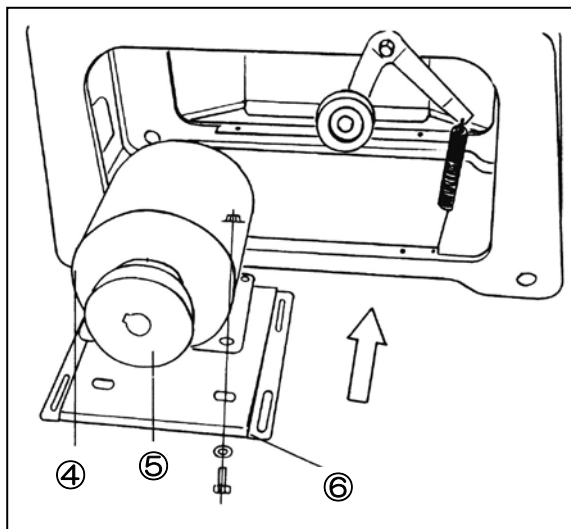
※ 長切り（切断長 100 mm以上）をしたいときは、次頁の「注記」を参照し、プーリの大きさを決定してください。

(2) カバーをはずします。

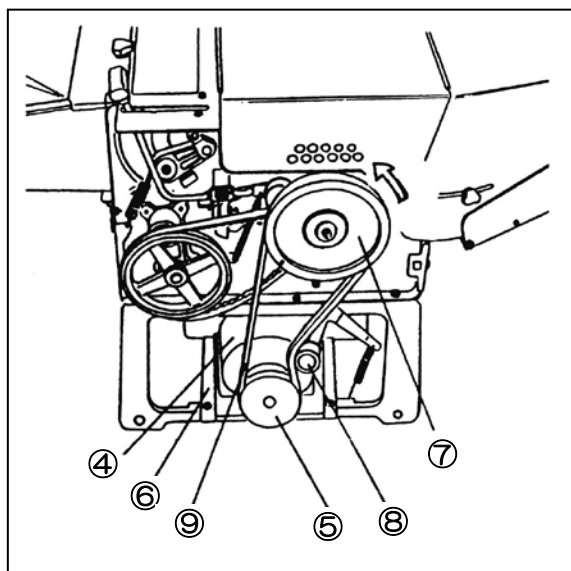
ノブボルト①をはずし、カバーA②を上方に引きはずします。次にカバーD③を上方に引きはずします。



- (3) 準備したモータ④にプーリ⑤をセットし、付属のボルト（ボルト M8、大丸座金 M8、ナット M8、各 4 個）で本体モータベース⑥にモータ④を固定します。このとき、カッタの主軸プーリ⑦とモータのプーリ⑤の芯を合わせてください。



- (4) 安全を確かめ、モータ④の回転方向（図を見て反時計回り）を確認してください。



⚠ 危険

- 回転方向確認中は回転物に絶対触れないように注意してください。巻き込まれて重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (5) カッタ主軸プーリ⑦、モータプーリ⑤、テンションプーリ⑧にVベルト⑨を掛けます。
- (6) (2) の逆の要領でカバーD③、カバーA②を取り付けます。

注 記

- 主軸の常用回転数は 800rpm・長切り（切断長 100 mm以上）は 600rpm にしてください。
- 主軸を 850rpm・長切り 650rpm 以上回転させないでください。
- 下記モータ・エンジンより大きいものは使用しないでください。

	モータ	エンジン
CX-201S	1.9kW	4.4kW

- モータまたはエンジンブリー径は、次式で算出します。

$$\text{モータまたはエンジンブリー径} = \frac{\text{カッタ回転数} \times \text{カッタブリー径}}{\text{モータまたはエンジン回転数}}$$

※ カッタブリー径・・・190 mm

※ モータ・エンジンの回転数は下表を参考にしてください。

●エンジン回転数	1800rpm	
●モータ回転数	50Hz 地区	約 1470rpm
	60Hz 地区	約 1740rpm

例) 下記条件の場合のブリー径の求め方

- ・モータ駆動
- ・カッタの回転数 800rpm
- ・モータの回転数 1740rpm (60Hz 地区)
- ・カッタブリー径 190 mm

$$\begin{aligned} \text{モータブリー径} &= \frac{800 \times 190}{1740} \\ &= 87.5 \text{ mm (3.5 インチ)} \end{aligned}$$

モータブリー径は 87.5 mm (3.5 インチ) となります。

4.4 試運転作業

- 本機の組立完成品をはじめて運転するときは、下記の手順に従っておこなってください。

⚠ 危険

- 本機を運転するときは、「第1章 安全」の項の指示に従ってください。誤った取扱い方をすると、死亡事故につながる恐れがあります。

4.4.1 試運転前の確認事項

(1) 始業点検

「始業点検」(7.1 項) の要領に従って始業点検を実施してください。

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をおこなうときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

(2) すべてのカバー類を取り付けてください。

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーをしないで運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

4.4.2 試運転

- 運転を始める前に、下記の注意事項を守って試運転をおこなってください。

危険

- 原動機を始動するときは、供給クラッチレバーを「切」の位置にしてから、始動してください。「切」の位置にせず始動すると、回転刃が回転してしまい、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 原動機の始動後、供給口や吐出口から手を入れないでください。誤って手を入れると重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- カバーをはずしたままで運転しないでください。回転部に接触し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

注意

- 吐出口の方向は人や家畜に向けないでください。切断物が当たるとけがをすることがあります。

警告

- 原動機の周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。火災の原因となる恐れがあります。

- (1) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (2) 次の手順に従って原動機を始動してください。
- 原動機がエンジンの場合
 - エンジンについては、エンジンの「取扱説明書」に従ってください。
 - ① エンジンの燃料コックを「開」の位置にしてください。
 - ② エンジンの停止スイッチを「運転」にしてください。
 - ③ スロットルレバーを「高」と「低」の中間位置にしてください。
 - ④ チョークレバーを「閉」の位置にしてください。
 - ⑤ 始動ロープを使ってエンジンを始動してください。
 - ⑥ 始動したらチョークを「開」の位置にしてください。
 - ⑦ 始動後、約 5 分間低速で、無負荷の状態暖機運転をしてください。
 - 原動機がモータの場合
 - ① モータの運転スイッチを「ON」にしてください。
- (3) 原動機の始動後、異常な点が発見されたら原因を究明し、修正してください。
- この「取扱説明書」に記載のない作業に関しては、購入先に相談してください。
- (4) 次の手順に従ってカット作業の確認をおこなってください。
- ① エンジンのスロットルレバーを「高」の位置まで静かに上げて、異常がないことを確認してください。
 - 異音がなければ正常です。
 - ② 供給クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - ③ 「原動機の停止」(5.4項)に従って、エンジンまたはモータを停止させてください。

第 5 章

運 転 操 作

⚠ 警告

- 原動機の周辺はいつもきれいに掃除してから運転してください。火災の原因となる恐れがあります。

5.1 運転前の準備

⚠ 危険

- カバーをはずしたままで運転しないでください。回転部に接触し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (1) 本機を水平に設置してください。
- (2) 「始業点検」(7.1 項) の要領に従って始業点検を実施してください。

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (3) 吐出口C を調節して、切断物の放出距離を合わせてください。

⚠ 注意

- 吐出口の方向は人や家畜に向けないでください。切断物が当たるとケガをする恐れがあります。

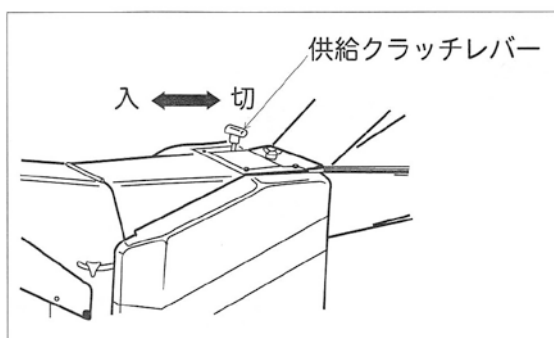
5.2 原動機の始動

⚠ 危険

- 原動機の始動後、供給口や吐出口から手を入れないでください。誤って手を入れると人身事故を起こす恐れがあります。

- 原動機を始動する前に次のことをおこなってください。

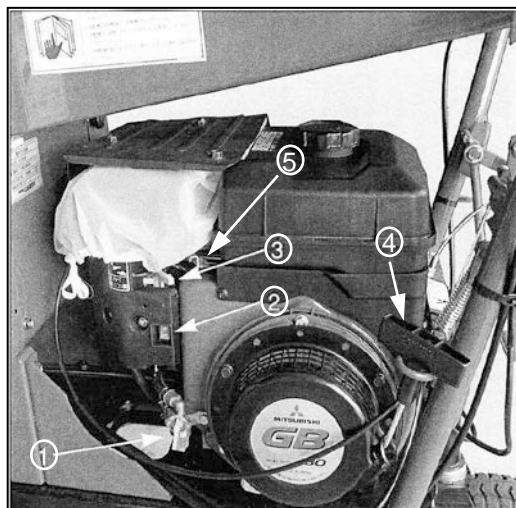
- (1) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



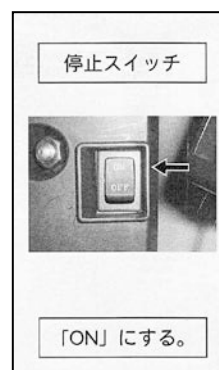
- (2) 次の手順に従って原動機を始動してください。

- 原動機がエンジンの場合
 - エンジンの始動はエンジンの「取扱説明書」に従っておこなってください。

- ① エンジンの燃料コック①を「開」の位置にしてください。



- ② エンジンの停止スイッチ②を「ON」にしてください。



- ③ スロットルレバー⑤を「高」と「低」の中間位置にしてください。
④ チョークレバー③を「閉」の位置にしてください。
※ エンジンが熱いときは不要です。
⑤ 始動ロープ④を使ってエンジンを始動してください。
⑥ スタートしたらチョークを「開」の位置にしてください。
⑦ 始動後、約5分間低速で、無負荷の状態暖機運転をしてください。

● 原動機がモータの場合

- ① モータの運転スイッチを「ON」(入)にしてください。

5.3 カッタ作業

5.3.1 カッタ作業の手順

- 下記の手順に従ってカッタ作業をおこなってください。
 - (1) 「運転前の準備」の項（5.1 項）に従って作業の準備をしてください。
 - (2) 「原動機の始動」の項（5.2 項）に従って原動機を始動してください。
 - (3) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。（エンジンの場合）
 - (4) スロットルレバーをゆっくり「高」の位置にしてください。（エンジンの場合）
 - (5) 供給クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
 - 供給ローラが回転します。
 - (6) 供給物を送り樋より入れてください。

注 記

- 供給クラッチレバーの操作は迅速、確実にしてください。
- 作業中、供給クラッチレバーを「切」にする場合は、非常時を除いて、カッタに供給物がなくなってから供給クラッチレバーを「切」にしてください。再始動時、刃物に供給物がかみ込んだ状態で始動できない場合があります。
- 風のある日は、作業員や原動機にほこりがかからないように、本機の向きを考えて作業をしてください。

5.3.2 供給物の上手な供給方法

⚠ 危険

- 運転中、供給物を引っ張ったり、押し込んだり、付着物を手で取ったりすることは絶対にしないでください。巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注意

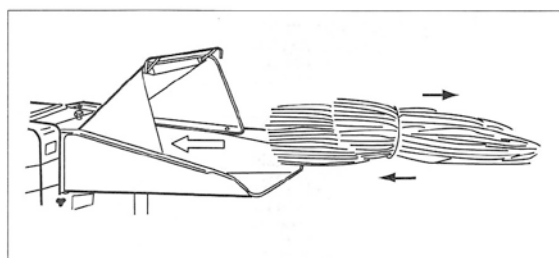
- 供給物に石や金属など、異物が入らないように注意してください。思わぬ事故や機械が損傷することがあります。

注 記

- 供給物は均一に丁寧に送り樋に入れてください。

- (1) 大束のわら（バインダーによるわら束）など

- 束を半分ずらして供給してください。

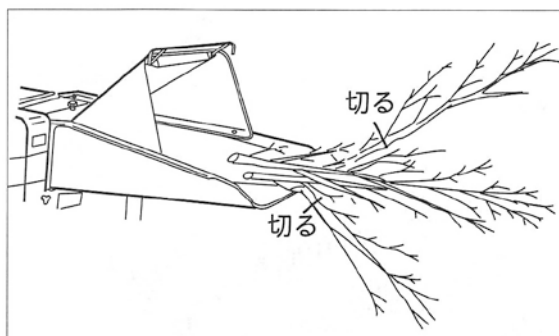


- (2) テントコーン

- 3～4 本ずつ供給してください。

- (3) せんてい枝、残条

- せんてい枝は、くい込みやすいように大枝を切って供給してください。



注 記

- せんてい枝、残条は直径 20 mm を超える物は切断しないでください。

- 切断能力は、エンジンの大きさ、刃物の状態により変わります。

5.3.3 刃物の研磨時期の見分け方

⚠ 警告

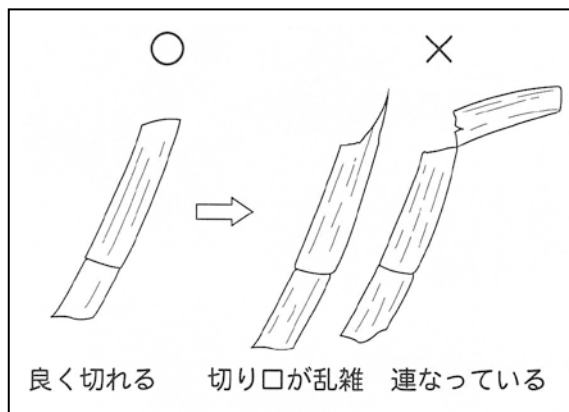
- 刃物の交換あるいは研磨をしたあとは、必ず刃のすき間調節をおこなってから運転してください。重大な事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意

- 刃物の点検や、研磨あるいは交換をするときは厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

(1) 刃物の刃先に丸味がでてきて切れなくなったら、早目に調節・研磨または交換をしてください。

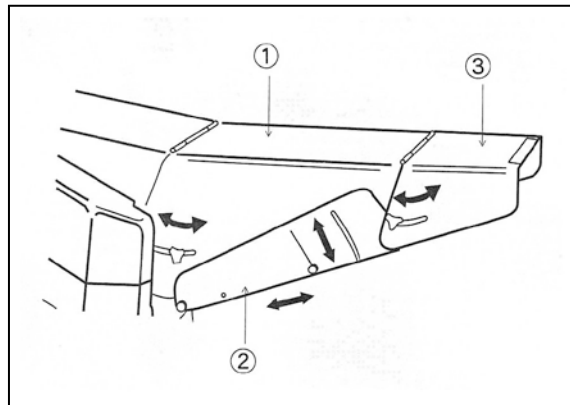
(2) 刃物の切れ方はわらの切口（右図参照）を見ても見分けることができます。



5.3.4 放出距離の合わせ方

切断物の放出距離は、吐出口 A①、吐出口 C③で調節します。

- 吐出口 A を立てたときは、吐出口 B②を下にずらしてください。
- 吐出口が詰まるときは、吐出口 B を長穴分ずらし、吐出口を広くしてください。



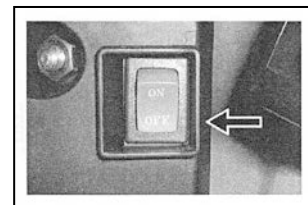
5.4 原動機の停止

● 原動機がエンジンの場合

注 記

- エンジンを停止させるときは、必ずスロットルレバーを「低」の位置にしてください。さらに、供給クラッチを「切」の位置にしてください。

- (1) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
- (2) スロットルレバーを「低」の位置にしてください。
- (3) エンジンの停止スイッチを「OFF」又は「停止」にしてください。



- (4) エンジンの燃料コックを「閉」の位置にしてください。

● 原動機がモータの場合

- (1) モータの運転スイッチを「OFF」にしてください。

⚠ 危険

- 本機から離れるときは、次のことを守ってください。重大な人身事故または火災の原因となる恐れがあります。
 - 原動機を停止させてください。
 - 原動機が冷えるまで離れないでください。

5.5 作業終了後の点検

危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (1) カッタ内部の切りくずを掃除してください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.2項)を参照してください。
- (2) 軸の巻付きを取り除いてください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.2項)を参照してください。
- (3) 刃の摩耗状態を点検してください。
 - 刃先の丸味が大きくなったら、研磨作業を購入先に依頼してください。
- (4) 刃の取付けねじのゆるみを点検して、ゆるみがあったら締め付けてください。

危険

- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (5) 原動機の周囲を掃除してください。

危険

- 本機から離れるときは、次のことを守ってください。重大な人身事故または火災の原因となる恐れがあります。
 - 原動機を停止させてください。
 - 原動機が冷えてから離れてください。

第 6 章

簡単な故障診断

- 本機運転中に何かの異常が発見されたら、この章を参照し点検をおこなってください。それでも異常が取り除けない場合は、購入先へ連絡してください。
- 異常が発見された場合
 - (1) 供給クラッチレバーを「切」の位置にしてください。
 - (2) 停止スイッチを押して、原動機を停止してください。
 - (3) 異常が発見されたときは、「異常処置の表」(次ページ)に従って対処してください。
 - (4) 種々の処置後、本機が回復したら、再度運転操作手順に従って運転操作をおこなってください。

危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

異常処置の表

異常のようす	原因	処置
回転刃が回らない	● カッタ駆動用ベルトがはずれている。	掛けなおす。
	● テンションプーリがはずれている。	掛けなおす。
	● 回転刃、固定刃間に供給物がかみ込んでいる。	供給物を取り除く。(7.2 項参照)
運転中、エンジンまたはモータが停止する	● 供給物の入れ過ぎ。	供給物を取り除き、再度エンジンを始動し、作業は適量ずつ供給する。(5.3.2 項、7.2 項参照)
運転中エンジンが停止する	● 燃料パイプの詰まり、またはふさがり。	エンジンの点検・清掃。 (エンジンの「取扱説明書」参照)
	● 燃料がなくなっている。	燃料を補給する。 (エンジンの「取扱説明書」参照)
切れ味が悪い	● 回転刃の摩耗。	刃の研磨。(7.5 項参照)
	● 固定刃の摩耗。	刃の研磨。(7.5 項参照)
	● 回転刃、固定刃のすき間が大きい。	刃のすき間調節。(7.5 項参照)
吐出口が詰まる	● 吐出口 B の上へ切断刃が堆積。	吐出口 B を長穴分ずらし、吐出口を広くする。(5.3.4 項参照)
	● 回転数が少ない	スロットルレバーで回転数を上げる。
異音がする	● 油が切れている。	給脂する。(7.3 項参照)

第 7 章

点検・調節・整備

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転をしたままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

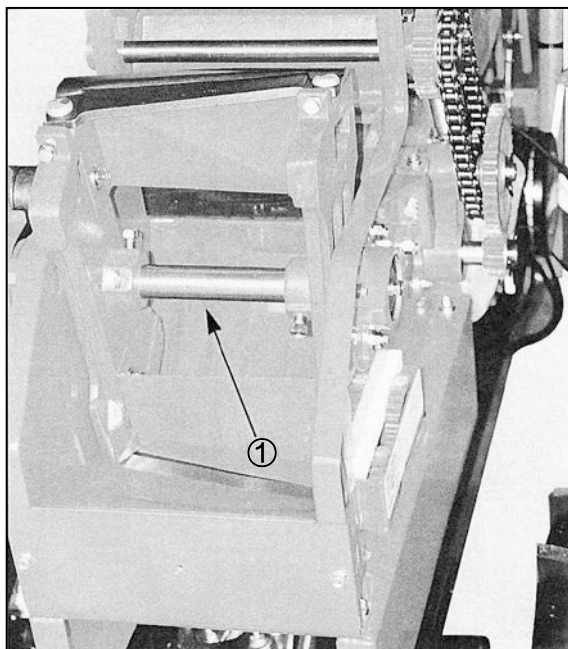
7.1 始業点検

- 本機で運転するときは、必ず下記の項目を点検し、正常でない場合は調節または整備をしてください。ただし、この「取扱説明書」に記載のない作業については、購入先に依頼してください。
- 原動機（エンジン、モータ）についての点検は、それぞれの「取扱説明書」に従ってください。

⚠ 危険

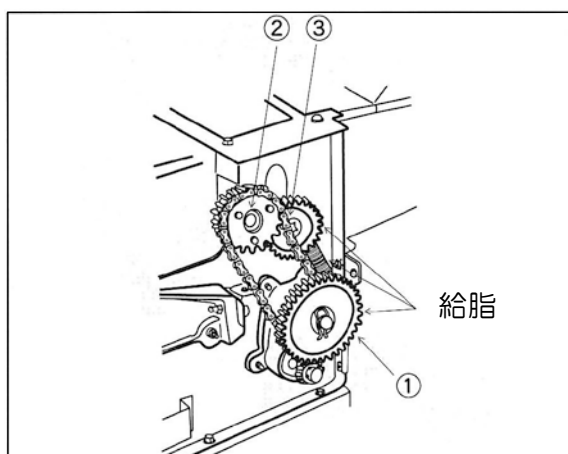
- 安全カバー類をはずすときは、必ず原動機を停止させてからおこなってください。運転したままはずすと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- (1) 本機のカバー類をはずして、本体内部および外部に切りくず、軸部①に巻付きなどが無いことを確認してください。
- 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」(7.2 項)に従っておこなってください。



- (2) 給脂箇所に給脂してください。
- 下記の箇所に「給脂の要領」(7.3 項)に従って給脂してください。

- ① ギヤ 4 枚
- ② スプロケット 2 枚
- ③ チェーン



- (3) 主軸を手で回したとき、回転刃が固定刃にあたらないことを確認してください。また異常音がないことを確認してください。
- 異常が見つかったら、刃のすき間調節をおこなってください。
 - 刃のすき間調節は、7.5 項を参照しておこなってください。

警告

- 固定刃と回転刃が接触、または干渉したまま運転すると、重大な事故となる恐れがあります。

- (4) 安全カバーを元の位置に取り付けてください。

7.2 内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領

⚠ 危険

- 安全カバー類をはずすときは、必ず原動機を停止させてからおこなってください。運転したままはずすと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- 掃除の要領は、下記の手順に従ってください。

(1) 「原動機の停止」の項(5.4項)に従って原動機を停止してください。

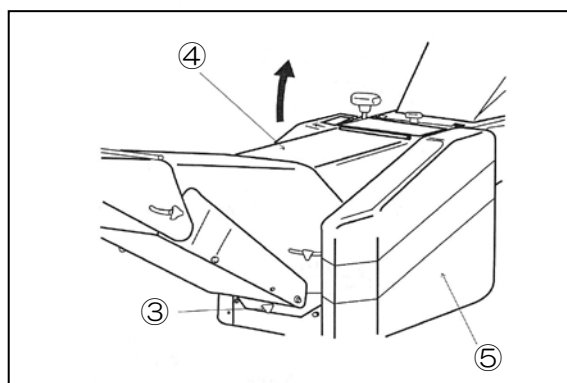
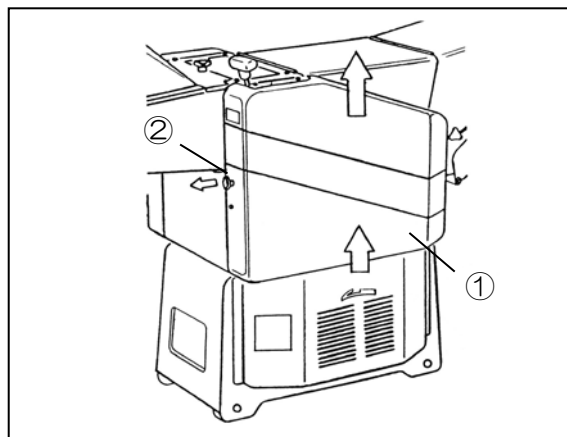
(2) ノブボルト②をはずし、カバーA①を上方に引きはずしてください。

(3) 左側のノブボルト②の対称位置にある左側のカバーB⑤の固定用のノブボルトをはずして、カバーB⑤を引きはずしてください。

(4) ノブボルト③をはずし、ケーシングA④を上方に開いてください。

(5) 本体内部に切りくず、軸部に巻付きなど、さらには本機の周囲にごみなどが無いことを確認してください。

(6) 切りくず、巻付きなどの掃除が終わったら、逆の手順で(4)～(2)に従ってカバー類を取り付けてください。



⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

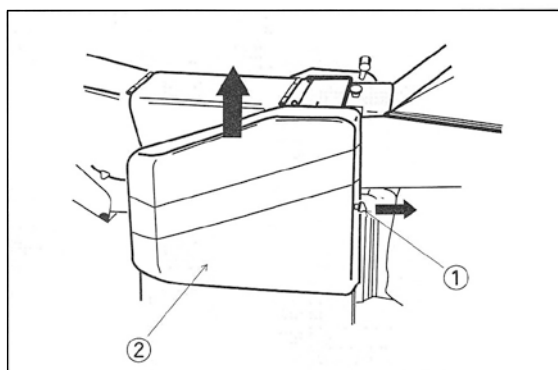
7.3 給脂の要領

⚠ 危険

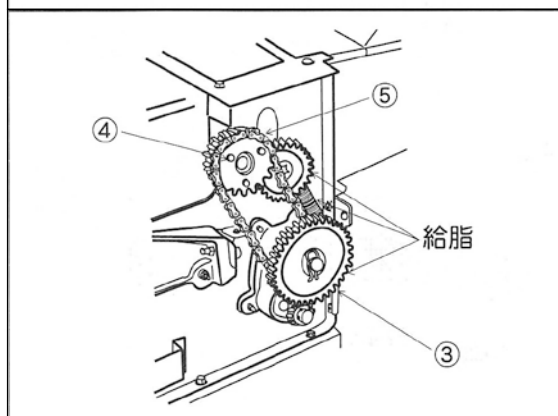
- 安全カバー類をはずすときは、必ず原動機を停止させてからおこなってください。運転したままはずすと、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- 下記手順に従って、給脂箇所に推奨オイルを給油または給脂してください。

- (1) 本機左側にあるノブボルト①を 1 個取りはずし、カバーB②を上方に引きはずしてください。



- (2) ギヤ③4 枚、スプロケット④2 枚 およびチェーン⑤に推奨オイルを十分給脂してください。



- (3) 給脂したら、カバーB を確実に取り付けてください。

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバーを確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故になる恐れがあります。

注 記

- 給脂用推奨オイル：ギヤオイル#90
- 給油の際、V ベルトに油が付着しないようにしてください。スリップの原因となります。

7.4 切断長さの調節

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと、回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。

- 切断長さの調節は、チェンジギヤの組合せを変えることにより、19 mm、47 mm、77 mmの3種類の長さに切断することができます。またオプションのチェンジギヤを別途お買い求めいただきますと、下表の「切断長さ調節表」に従ってチェンジギヤを変えれば、さらに24 mmから154 mmの間で4種類の切断長さを選択することができます。
- 1枚刃で使用する場合は、オプションのバランスウエイトが必要です。
- 出荷時のチェンジギヤの組合せは、切断長さ19 mmにセットされています。

切断長さ調節表

単位：mm

	標準仕様			オプション仕様			
	19	47	77	24	28	128	154
2枚刃仕様切断長さ	19	47	77	24	28	128	154
1枚刃仕様切断長さ	38	95	154	48	57	—	—
下ローラ軸側ギヤ	38	28	22	36	34	16	14
減速軸側ギヤ	12	22	28	14	16	34	36

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

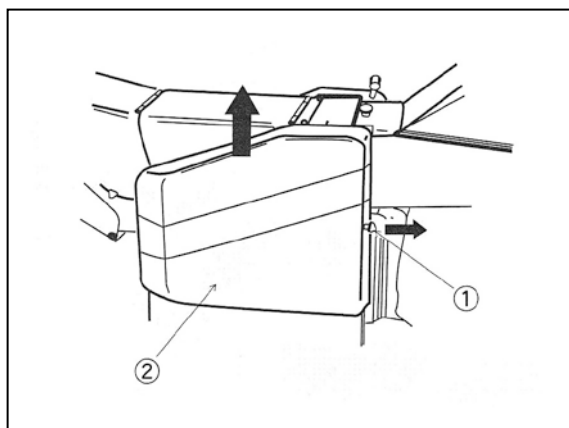
⚠ 注意

- 刃物の点検や、研磨あるいは交換をするときは、厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

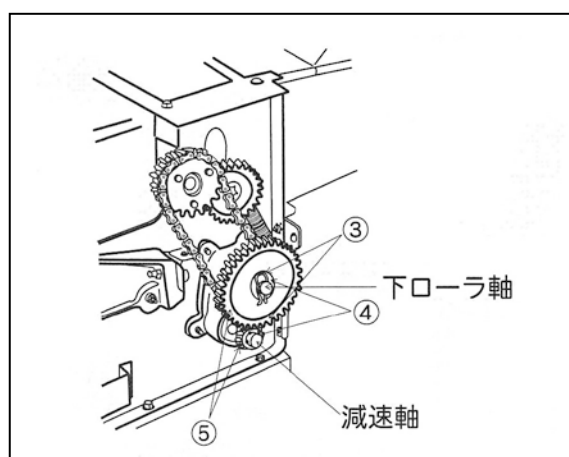
7.4.1 チェンジギヤの交換要領

- 下記手順に従ってギヤを交換してください。

- (1) 「原動機の停止」(5.4項)に従って停止してください。
- (2) 本機左側のノブボルト①を 1 個取りはずし、カバー-B②を上方に引きはずしてください。



- (3) Rピン③、座金④を取りはずして、ギヤ⑤を入れ換えてください。
- (4) 交換終了後、各歯車に元の座金とRピンを差し込んでください。



- (5) 各歯車に推奨オイルを給脂してください。
- (6) カバー-B を元の位置に戻して、ノブボルトを締め付け、固定してください。

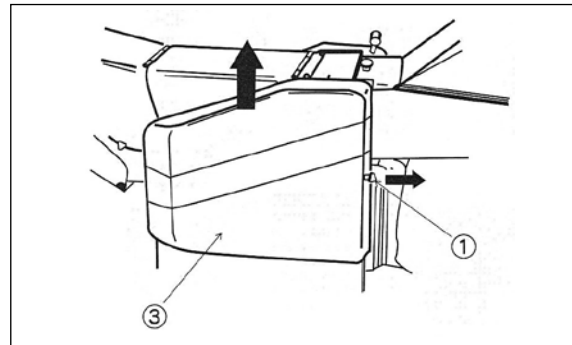
注 記

- 1 枚刃で使用する場合は、オプションのバランスウェイトが必要です。
- 100 mm以上の長切りは、主軸回転数を 600rpm に設定してください。

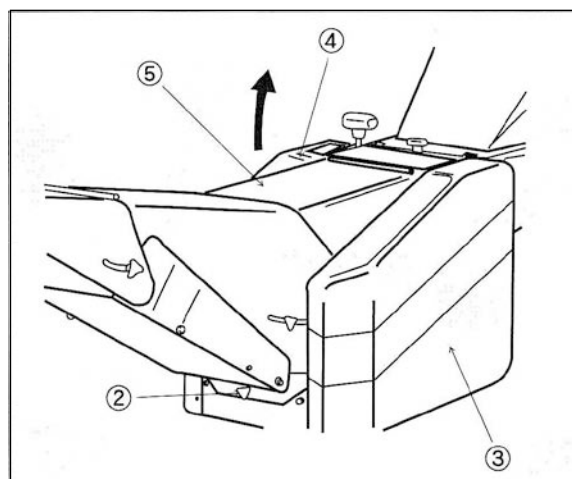
7.4.2 バランスウエイトの取付要領

- オプションとしてバランスウエイトを別途お買い求めいただきますと、回転刃を1枚刃として使用することができます。1枚刃にすると、2枚刃の切断長さのそれぞれ2倍の切断長さになります。下記の要領でバランスウエイトを取り付けてください。

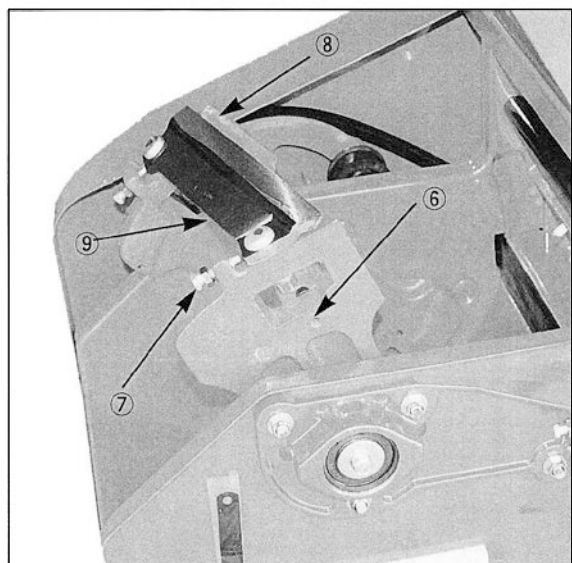
- (1) 本機左側のノブボルト①をはずして、カバーB③を上方に引きはずしてください。



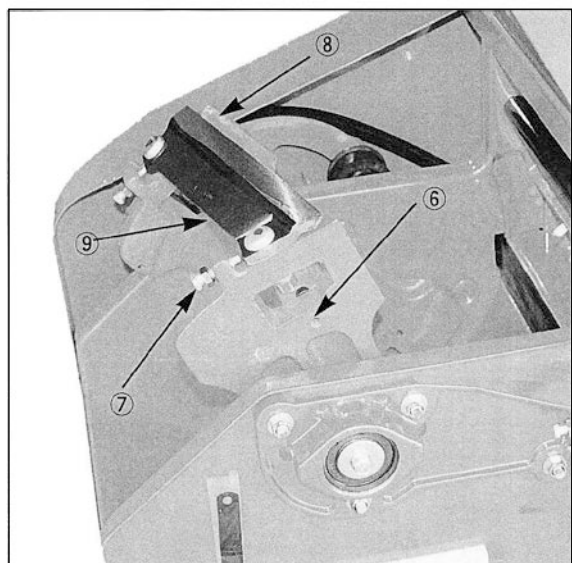
- (2) 左側のノブボルト①に対して対称位置にある右側のノブボルトをはずして、カバーA④を上方に引きはずしてください。



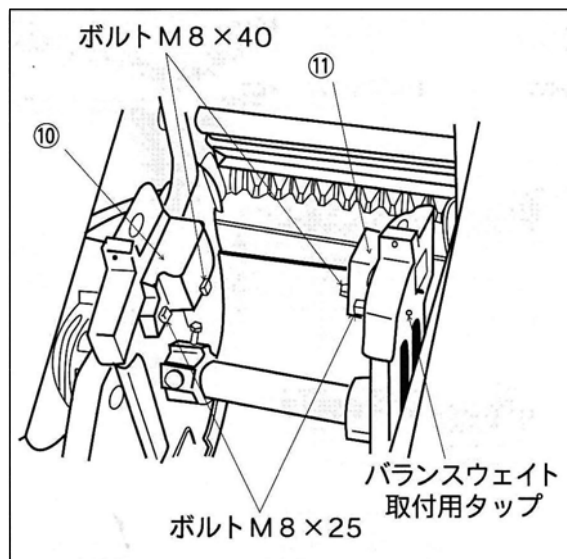
- (3) ノブボルト②をはずして、ケーシング A⑤を上方に開いてください。



- (4) バランスウエイト取付け用のタップ⑥が付いている側の回転刃⑨、回転刃調節ボルト⑦および翼板⑧を取りはずしてください。



- (5) バランスウエイト A⑩およびバランスウエイト B⑪を取り付けてください。
- (6) バランスウエイト取付け後、静かに回して、回転刃の静バランスを確認してください。



オプション付属部品

バランスウエイト A		1個
バランスウエイト B		1個
ボルト	M 8 × 2 5	2個
ボルト	M 8 × 4 0	2個

注 記

- 「静バランス」が良いということは、回転刃が回転周のどこの位置でもおおよそ静止する状態をいいます。
- 静バランスが悪いときは、購入先にご相談ください。

7.5 刃物の交換と調節の要領

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をするときは、必ず原動機を停止させて、さらに回転刃の回転が停止したことを確認してからおこなってください。運転したままおこなうと回転刃による重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- 本機の点検・調節・整備終了後、すべての安全カバー類を確実に取り付けてください。安全カバーがない状態で運転すると、回転物に接触、または巻き込まれて、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

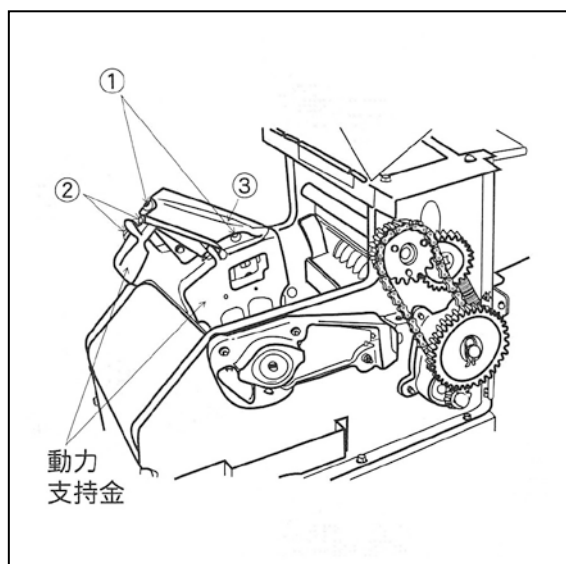
⚠ 注意

- 刃物の点検、研磨あるいは交換をするときは、厚手の革手袋を着用しておこなってください。けがをすることがあります。

7.5.1 回転刃の交換

- 下記の要領で回転刃を交換してください。

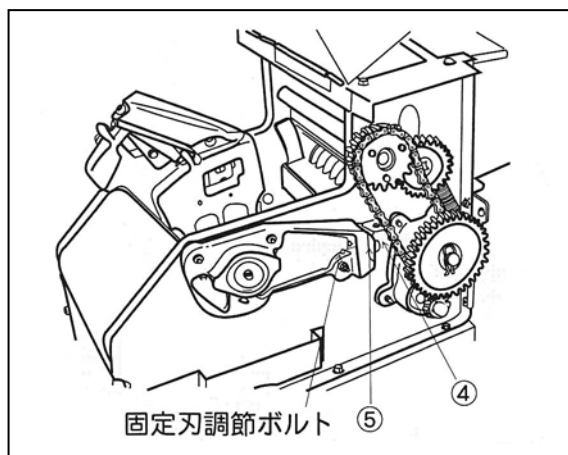
- (1) 「バランスウエイトの取付要領」(7.4.2 項) の手順 (1) ~ (4) をおこなってください。
- (2) 回転刃取付ボルト①2 個をゆるめて、回転刃 2 枚を取りはずしてください。
- (3) 取付部を清掃してください。
- (4) 新しい回転刃を逆の手順で取り付けてください。



7.5.2 固定刃の交換

- 下記の要領で固定刃を交換してください。

- (1) 「バランスウエイトの取付要領」(7.4.2 項) の手順 (1) ~ (4) をおこなってください。
- (2) ボルト M10④を 2 個はずして、固定刃⑤を側板側から抜き取ります。
- (3) 取付部をよく清掃してください。
- (4) 新しい固定刃を逆の手順で取り付けてください。



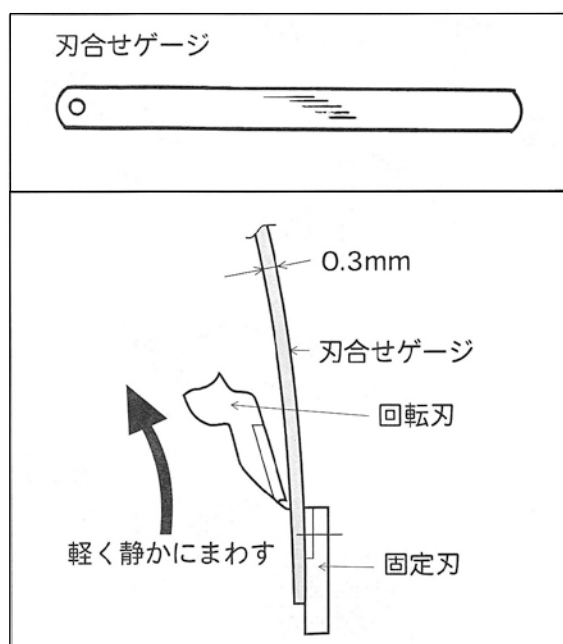
7.5.3 刃物のすき間の調節

注 記

- 刃のすき間調節は、刃物の交換あるいは研磨したときは、必ず実施してください。

- (1) 固定刃と回転刃のすき間が 0.3 mmであることを付属の刃合せゲージ (0.3 mm) を使用して確認してください。

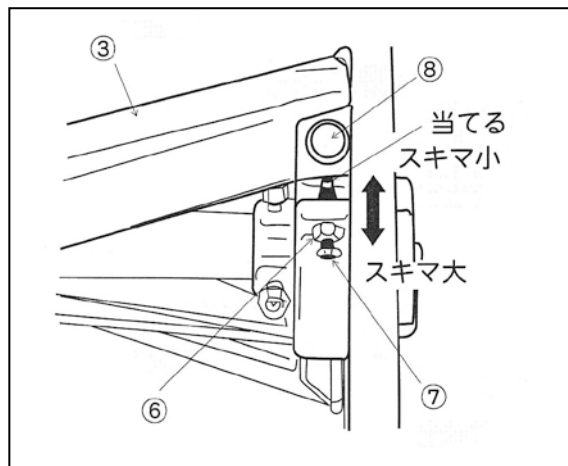
- ① 本機付属の刃合せゲージを固定刃に、図のように添えてください。
- ② 回転刃を矢印方向 (切断方向と反対) に手で静かに回してください。ゲージが回転刃と固定刃にはさまれ、接触しながら軽い程度に回転するとき、すき間が 0.3 mm です。刃のすき間は、刃の中央と両端の 3ヶ所で確認してください。



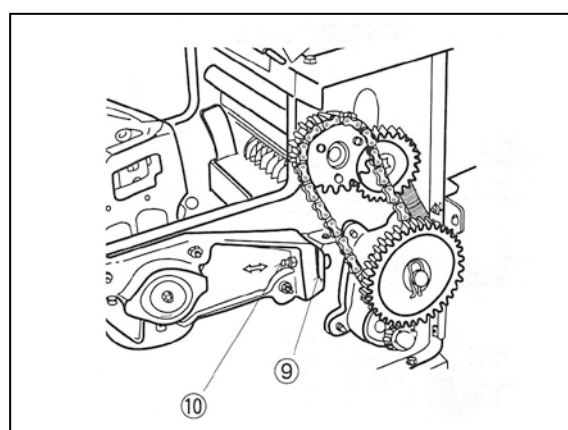
(2) 刃のすき間が 0.2~0.3 mmでない場合

● 回転刃が 2 枚の標準仕様のとき

- ① 回転刃調節ボルト⑦のロックナット⑥をゆるめ、いっぱい引っ込めて回転刃③を取り付けてください。
- ② 回転刃の背の部分に確実に回転刃調節ボルトを当ててロックナットで固定してください。



- ③ 2 枚の回転刃のうち、すき間の少ない刃の方を、固定刃調節ボルト⑩で固定刃⑨を前後して、すき間 0.2~0.3 mmに合わせます。合わせたらロックナットで固定してください。



- ④ もう一方の回転刃を回転刃調節ボルトで前に出して、すき間 0.2~0.3 mmに合わせます。

(回転刃取付ボルト⑧は、少しゆるめておこないます。調節後は忘れないで締めてください。) 回転刃調節ボルトをロックナットで固定してください。

(3) 刃のすき間が 0.2~0.3 mmでない場合

● 回転刃が 1 枚の仕様 (オプション) のとき

- ① 回転刃調節ボルトのロックナットをゆるめ、いっぱい引っ込めて回転刃③を取り付けてください。
- ② 回転刃の背の部分に確実に回転刃調節ボルトを当ててロックナットで固定してください。
- ③ 固定刃調節ボルト⑩で固定刃⑨を前後して、すき間 0.2~0.3 mmに合わせます。合わせたらロックナットで固定してください。

注 記

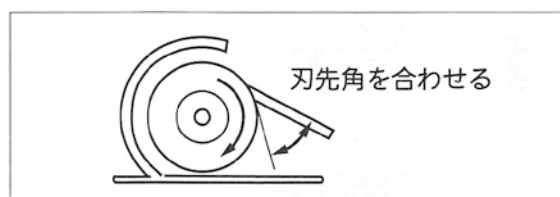
- 回転刃の調節ボルトを使用するときは、回転刃取付ボルトをゆるめてからおこなってください。
- 固定刃調節ボルトを使用するときは、固定刃を固定している M10 ボルトを少しゆるめてからおこなってください。
- 調節終了後は、回転刃取付ボルト・固定刃を固定している M10 ボルトを必ず締め付けて固定してください。

7.5.4 刃物の研磨の方法

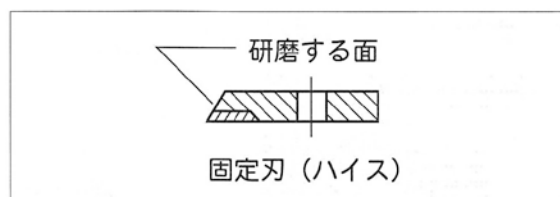
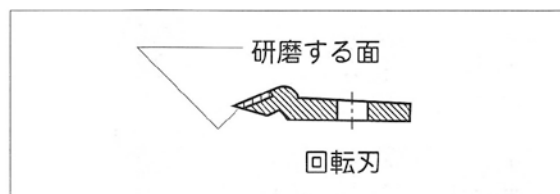
注意

- 刃物を研磨するときは保護メガネを着用しておこなってください。研磨材あるいは鉄の破片などが目に入ると大変危険です。

- ① 研磨機（水といし）に刃物の刃先角を合わせて研磨してください。



- ② 刃物の研磨面は、図の面を研磨してください。



注記

- 回転刃を取りはずしたときは（特に2枚刃仕様）、動刃支持金の同じ場所に、同じ回転刃を取り付けてください。すき間調節を楽におこなうことができます。

7.6 消耗品

- 本機の部品で次の部品は消耗品となっております。点検時消耗が激しいときには新品と交換してください。

No	部品名	コード	数量	備考 / (交換の目安)
1	回転刃	111180-220200	2	100 時間 (研磨までの時間)
2	固定刃	111180-220400	1	100 時間 (研磨までの時間)
3	案内板	111180-120700	1	500 時間
4	ケーシング B	111180-230100	1	約 1000 時間
5	ケーシング A	111180-230300	1	約 1000 時間
6	ベアリング 6203UUJ	241140-006203	4	軸受 C 500 時間
7	ベアリング 6202UUJ	241140-006202	4	中間歯車・ローラ支持金 500 時間
8	ベルト張り車	111212-204000	1	500 時間
9	ベアリング 6205UUJ	241140-006205	2	軸受 A・B 500 時間
10	ローラチェーン 40×44	111170-122600	1	1000 時間
11	Vベルト LA36	251313-036	1	1000 時間
12	Vベルト関係	—	—	500 時間
13	ギヤ関係	—	—	500 時間

第 8 章

格納・保管

8.1 格納・保管の要領

- ① カバーA・カバーB・カバーD を取りはずして、カバー内部、原動機周辺の切りくずなどを取り除いてください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」（7.2項）を参照してください。
- ② 機械内部・軸部へ巻き付いた切りくずなどを取り除いてください。
 - 「内部の切りくず、軸の巻付きの掃除要領」（7.2項）を参照してください。
- ③ 給脂箇所に十分給脂してください。
 - 「給脂の要領」（7.3項）を参照してください。
- ④ ボルト・ナットのゆるみを調べ、ゆるんでいたら増し締めしてください。
- ⑤ 全ての刃物に油を塗布してください。
- ⑥ 供給クラッチレバーを「切」の位置にして保管してください。
- ⑦ 風通しが良く、雨水のかからない日陰を選んで格納してください。

MEMO

お客さま相談窓口

製造元	株式会社	山本製作所
農機事業部		☎ (0237) 43-8811
北海道営業所		☎ (0126) 22-1958
東北営業所		☎ (0237) 43-8828
関東営業所		☎ (0285) 25-2011
新潟営業所		☎ (025) 383-1018
東海営業所		☎ (0566) 75-8001
大阪営業所		☎ (06) 4863-7611
岡山営業所		☎ (086) 242-6690
四国営業所		☎ (087) 879-4555
九州営業所		☎ (096) 349-7040

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

解体・廃棄について

解体は、組立作業の逆の手順でおこなってください。
廃棄する部品は、分別して処分してください。

製造元 **株式会社 山本製作所**

本社 山形県天童市
東根事業所 〒999-3701 山形県東根市大字東根甲 5800-1
TEL (0237) 43-3411 (代)